

6/2
福井

歯科受診我慢しないで

コロナ不安 患者数減少

放置で新たな病気リスク

対策徹底「まず相談を」



▽対応

新型コロナウイルス感染症による「受診控え」が、歯科治療でも目立っている。各地の歯科医院では以前からの感染対策を進めていたが、さらに予防策を徹底。感染への不安から治療をためらう患者に対して、歯科医は「受診先延びは別の病気を起す」や「リスクもある。痛みや腫れがあれば、我慢せずにある相談して」と呼び掛けている。

岩下明夫副所長(53)が、飛沫吸入用の機器を指し示し

フューズシールドエアーフィルターフロンを適用し、治療する相手歯科の歯科医=夫だと強調する。

5月18日、東京都立川市

ながら、穏やかな声で一つ説明した。

同医院では感染防止の対策を拡充させており、入り口で検温して患者の体調をチェックし、待合室で距離を取って座れるように約も

調整。治療の際、歯科医や歯科衛生士は、フェースシールドとリニールエプロン

を着用している。4月中は抜歯などの治療を制限したが、5月から徐々に受け入れるようにしたという。

歯科治療の現場では、患者の唾液や血液などを含んだ飛沫が飛び散りやすく、以前から感染症対策に力を入れてきた。日本歯科医師会は5月初旬、安全圧を強調するため「治療を通じて患者さんの感染の報告はありません」とする新聞広告を出した。岩下副所長も「より感染力の強いB型

肝炎にも対応してきた。治療にかかるもひつて大丈夫だ」と強調する。

▽免疫力

ある歯科医(62)は「患者さんが『行つても大丈夫か』と問い合わせがあった」と

打ち明けた。この医院でも

対策を強化したが、4月の患者数は減少した。この患者の受診控えは経営面にも影響を及ぼすが、この

歯科医が最も懸念するのには、治療の放置が別の病気を引き起すリスクだ。口内

にかかる学校での歯科健診がストップし、子どもたちの歯の健康も気になる。何かあればかかりつけ医に相談し、受診をためらわないでほしい」と語る。

フェースシールド導入など

を意味するが、高齢者は認知性肺炎につながることもある。休校のため学校での歯科健診

がストップし、子どもたちの歯の健康も気になる。何かあればかかりつけ医に相談し、受診をためらわないでほしい」と語る。